

稲刈り後の水田雑草対策について

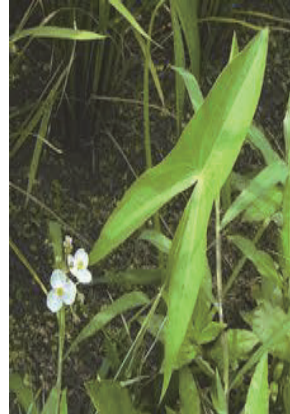
☆ 地下茎（塊茎）で増える雑草には稲刈取後の除草剤が効果的です ☆



ミズガヤツリ



セリ



オモダカ



クログワイ

【 薬 剤 名 】

- ・ラウンドアップMAXロード 50 倍液
- ・草枯らしMIC 50 倍液
- ・クロレート粒 20kg／反（ケイカルなど土づくり資材との近接散布は避ける）



【 散布時期など 】

- ・刈取後なるべく早めに除草剤を散布し、地上部を枯死させ、地下茎の形成を阻害する。
- ・塊茎の形成時期はかなり幅があり、早いものは9月中に形成が見られる。
- ・散布時期が遅れるほど塊茎の数が多くなるので除草効果が劣る。（9月下旬までが理想）
- ・2年連続で秋散布すると、ほぼ根絶が可能となる。

【 散布上の注意 】

- ・散布前後に降雨があると効果が落ちるので天候をよく見極めて散布すること。
- ・田面がワラで覆われているときは、雑草が発生してから散布し、茎葉に薬剤をよく付着させる。（液剤の場合）
- ・散布する際は、圃場周辺の作物の薬害防止に細心の注意を払う。

◆ 特別栽培米生産予定農家の皆様へ ◆

来年、特別栽培米（減農薬・減化学肥料栽培など）を予定されている場合、前作物収穫後から使用した肥料・農薬をカウントするので、圃場への除草剤散布は控えるようにしましょう。土づくり資材の選択については、化学合成窒素を含まない、ケイカルやしきぼホワイト、ようりんを施用するようにしてください。

秋の田起こしによる おいしい米づくり

Point

1 気温が高い10月中に実施

土中にすき込み、稲わらの腐熟を促進

2 ゆっくり、深さ15cmを確保

課題

- ・ 作土深15cm以上の圃場は約3割
(平均の耕深は10cm程度)
- ・ 耕起時のトラクタ速度は0.4m/秒

対策

- ・ 作土深15cm以上
- ・ 適正スピードの
0.25m/秒
(歩く速さの1/4)

3 ケイ酸・有機物の補給

ケイ酸の効果

(ケイカル 500kg/10a・しきぶホワイト 100kg/10a)

- ① 登熟が向上し、粒張りや品質が良くなる
- ② 乳白米を軽減する効果がある
- ③ 病害虫に対する抵抗性が強まる
- ④ 倒伏に強くなる



けいふんの効果

(100~150kg/10a)

- ① 地力UPにより収量向上や肥料節約につながります。
- ② 稲わらの腐熟を助け、たい肥化を促すことにより、
来年春の湧き(ガス)の発生を抑制します